おーい図書館

No.225
発行 おーい図書館
代表 青木 和子
松戸市牧の原1-104-416
TEL 047-311-0886

流山市立南流山地域図書館 見学会

武笠紀子

新松戸7丁目に隣接する流山市の木地区に昨年12月に新設された南流山地域図書館を、2月22日(水)に見学しました。

4階建ての施設の1階にはカフェ、2階には児童センター、3階に子ども図書館、4階に一般図書館が入っています。カフェと児童センターと図書館とを、それぞれ受持つ3つの民間会社が共同受託して運営しています。図書館も児童センター(顔認証の登録制)も松戸市民でも利用できるそうで、新松戸からの利用者が増えてきているそうです。

松戸市内の図書館は、本館、地域館が1館、そして19の分館がありますが、地域館以外はどこも狭くて、座って閲覧できる場所もほとんど無いので、閲覧席がたくさんあって羨ましいと思いました。

子ども図書館は本棚が低くて、広さと明るさを感じましたが、一般図書館は天井まであるチョコレート色の高い本棚に圧倒されて、暗くて狭苦しい感じでした。一番上の棚には本が置かれていませんでしたが、なぜ本棚があんなに高いのか、案内して下さった図書館の方も分からないとのことでした。

所蔵庫も見せて頂きましたが、広いスペースはほとんど空いていたので、できたら本棚を低くして、古い本等は所蔵庫に入れておいて、検索で貸し出す方が良いのではないかと思いました。

一昨年、松戸で初めての地域図書館が開館しましたが、こちらは子ども図書館も一般図書館もワンフロアにあるので、広さと明るさが感じられてゆったり感があります。しかし、せっかくの所蔵庫は狭く、本棚は可動式ではないので所蔵冊数は限られ、勿体ないと思います。

松戸市民はこれまでも、市川市、流山市、金町等の近隣の図書館を利用させて貰いました。東松戸は地域図書館が出来ましたが、他の地域はどうするのか？市庁舎とゴミ焼却場の建設や小中学校改築等に追われて、図書館は後回しになっています。市民は、松戸の図書館をどうするのかを真剣に考える時だと思います。

南流山地域図書館 児童センター ヨミ・アンビ・カフェ

小川夕子

昨年オープンしたばかりの「南流山地域図書館」の見学に行ってきました。児童センターとの複合施設になっていて、図書館と遊び場と同時に楽しめることもあり、特に週末は来館者も多く、最近は松戸市からの利用も多いそうです。印象に残っているところを紹介します。

①オシャレな1階カフェスペース

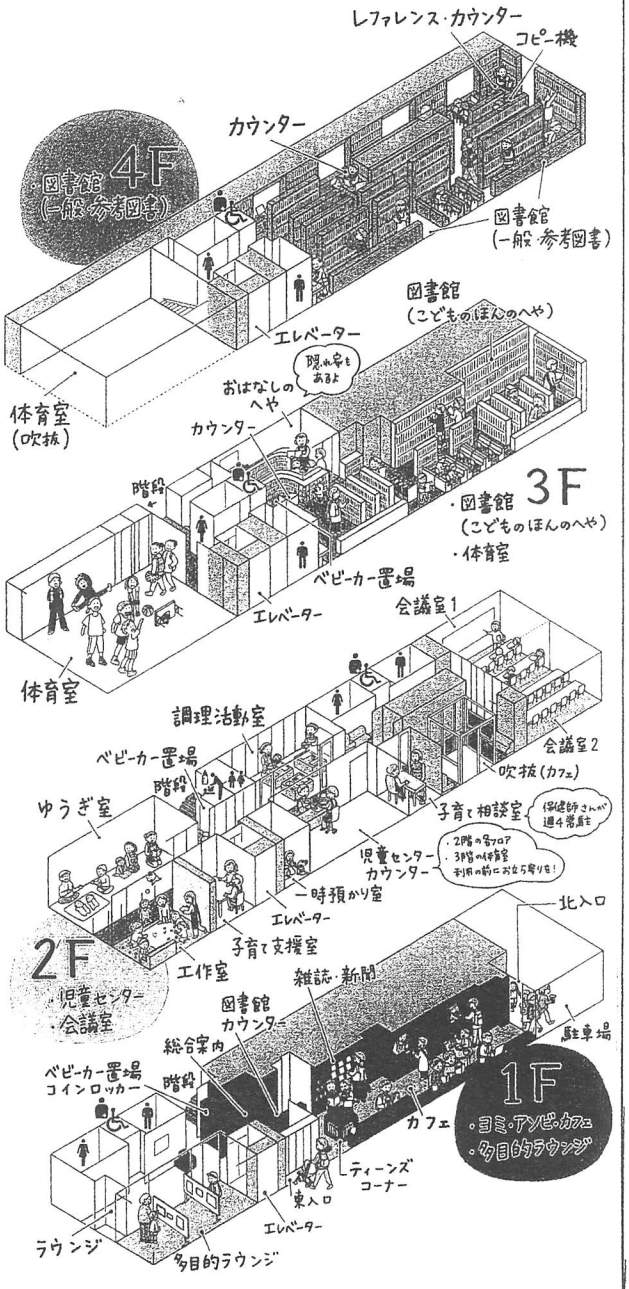
⇓入口すぐにカフェがあり、美味しいコーヒーや軽食を頂きながら本が読めるスペースになっています。公共施設のイメージが変わりました。

②充実した児童センター

⇓未就学児の遊戯室はもちろん、吹き抜けの体育室や学齢期向けの工作室、たくさんの知育玩具やカードゲームなどもあって、お父さんもとりあえず、ここに来れば お子さんと一緒に楽しく時間を過ごせるというのもいいな、と思いました。子育て中の身としてはとてもありがたいです。

③子ども目線の児童書コーナー

⇓3階の児童書は、子どもの背丈でも取り出せるような大きめの棚に本がとても見やすく配置されていたのが印象的で、同じフロアにある「おはなしのへや」



は未就学児が喜びそうなしかけがあり、くつろぎながら読み聞かせなど親子で本が読めるようになっていました。

④書店のような雰囲気の一般図書館

⇓レファレンスカウンターもあり、棚などの色も落ち着いた雰囲気で、見やすくまとめられていました。

案内して下さった館長は元は書店員で、在職中に司書資格を取得したそうです。本のポップや館内の雰囲気が、ただ本を貸し出すだけではなく、ゆっくり楽しむための工夫をいろいろされている事がお話の中からも伝わってきました。

私自身もそうですが、図書館でせっかく本を借りてきても、家だと家事が気になってなかなか落ち着いて本を読む時間が取れないことが多いです。足を運びたくなるような居心地の良い図書館が地域にあると、日々の忙しさをちょっと家に置いて、ゆっくり本を読んだり調べものをしたり、自分のための時間を過ごせて、気持ちにもゆとりが出来るのではないかと思いました。

今回は見学の機会を頂き、ありがとうございました。

富田文子

2月22日(水)、「おーい図書館」企画の見学会に参加して、昨年12月にオープンした「南流山地域図書館」見学に行ってきました。

建物の外観は、シンプルでスタイリッシュなコンクリート打ちっぱなしのデザイン。4階建てで、中に入ると1階はカフェと多目的スペース、2階が児童センターや会議室、3階は子どもの本の部屋やミニバスケが出来る体育室、4階が一般図書館という作りになっています。JR南流山駅から徒歩8分ほどで、駐車場もあり、小さなお子さんが遊びやすそうな公園と隣接しており、外遊びから図書館や児童センターへの動線バッチリの立地にありました。

今回、見学前から気になっていたのは、運営を民間業者に委託する「指定管理者制度」を導入している点でした。

1階のカフェは「CBH」(すでに市内で出店実績のある会社)、2・3階の児童センター部分は「アクティオ(株)」、図書館部分は「すばる書店(株)」と、3社で運営されているとの事です。

それぞれ案内をして頂いて、こちらの施設は図書館より児童館の要素が大きいのかな、と思いましたが、これは子育て世代にはたまらない魅力的な場だと感じました。利用者には小さなお子さんを連れたお父さんやシニアの方が多く、順番待ちもあるが一日居ることができるというお話を聞いて、「子育てなら流山」を目指す取り組み

そのものだな、と納得しました。

これからの時代は、母親だけでなく父親やサポートするシニア同士の交流が自然に深まることで、また違った形のコミュニティーや取り組みが始まっていく予感がしました。

また、いくら箱ものを作っても、利用者のニーズに合わなければ無駄な施設になってしまうので、社会のニーズに的確に反応するには民間の参入も有りかも？と思ったり…

とは言え、安易に委託してしまう事により、図書館で働く専門職員の雇用を脅かす危険性などもありそうなので、まだまだ「指定管理者制度」については勉強が必要だと思いました。

そして、「図書館は公共のもの」という視点で考えると、松戸市に新しく出来る図書館は「誰もが利用しにくくなる図書館」であって欲しいと強く思いました。

一緒に見学会に参加した市内のシニア男性からは、「私が思う図書館は、こちらとは少し違う。松戸市に新しく出来る図書館は、車を手放したシニアも利用し易いように、駅から近くて学習スペースのある図書館が良い。」という声も聞かれました。

我が家の本好きな高校生の娘は、4階の図書館スペースであちこちの本を手に取り、楽しそうでした。図書館というより書店のような高さのある本棚については、「本が迫って来る感じが結構好き」と。本がたくさん並ぶ書棚は、本が好きな人にとってはそれだけでワクワクする場になるかもしれません。（子どもの本棚と大人の本棚のメリハリを感じました。）

「図書館＝子ども」という意識に行きがちですが、常世田さんが勉強会でおっしゃったように、図書館は大人が「知を得る場所」であり、誰もが平等に情報を得られる場所という視点で考えると、これから松戸市に出来る図書館は、もっといろいろな声を聞きながら考える必要があるとも思いました。

ちなみに、南流山地域図書館の蔵書数は7万6千冊（一般4万5千冊、児童書3万冊、他は新聞や雑誌類）となっており、また、バックヤード（書庫）は可動式になっており、たっぷり本を保管できる（5万冊収納可能）は羨ましかったです。

近隣地域の図書館を見学することで、松戸市にすでにある図書館や自分にとっての理想の図書館との比較ができるので、今後も行ける範囲の近隣の図書館から足を運んでみようと思いました。